「令和元年度 発達段階に応じた読書活動の推進」委託事業　福島県教育委員会

＜課題＞

学校段階が進むにつれて、子どもの読書離れが進んでいる現状がある。また、乳幼児期から高校期にわたるそれぞれの発達段階に応じて、体験的に読書に親しむような機会が少ない。

＜事業のねらい＞

発達段階に応じて、体験を通して読書に親しむ演習等を行い、乳幼児期から高校期に至る切れ目のない読書活動を推進し、子どもが主体的に読書活動に取り組み、生涯にわたる望ましい読書習慣の形成を目指す。

発達段階に応じた読書活動推進事業
令和の夏読書の世界再発見ツアーin ふくしま

日　　時：令和元年８月６日（火）
　　９：３０～１５：４０
場　　所：福島県立図書館
参加者数：１５４名

企画運営委員会（第１回７／１８・第２回１／３０）

- 事業の在り方や効果的な実施・評価方法等の検討
- 令和元年度事業計画の内容検討及び助言
- 事業の成果についての点検・評価
- 次年度事業への助言

中高校期における読書

講義・演習「ビブリオバトル　まずは自分から楽しんでみよう」
講師　文教大学教育研究所所長　　平　正人　氏

講義では、ビブリオバトルの進め方やその効果などについて理解を深めた。さらに、演習では、参加者が実際にビブリオバトルをすることで、その楽しさを体験するとともに多くの人と本に出会うことができた。

小学校期における読書

講義・演習「ブックトークしてみませんか?」
講師　ＪＰＩＣ読書アドバイザー　　児玉　ひろ美　氏

小学６年生を想定したブックトークの実演があり、参加した小学生は読んでみたい本を発見することができた。また、学校関係者や司書、読書ボランティアの方々は、ブックトークの手法などについて研修を深めることができた。

乳幼児期における読書

講義・演習「絵本で遊ぶ」
講師　幼児教育専門家・語り手　　藤田　浩子　氏

参加者は、講師による手遊びや語りの世界に引き込まれ、自然に笑顔となって交流を深めた。また、そうした体験を通して、乳幼児期の子どもにとって大切なコミュニケーションや語り、絵本の読み聞かせの大切さについて学ぶことができた。

図書館紹介

最後に、県立図書館と公立図書館の司書より、図書館の利用の仕方やサービスについて説明があり、利用の促進を図った。

- ○　おはなし、あそび、わらべうたなど、とても楽しく学ぶことができました。子どもとふれ合いながら、ぜひやってみたいと思いました。（幼稚園教諭）
- ○　おもしろい本をたくさん紹介してもらってよかったです。「チポロ」や「ヤイレスーホ」がおもしろそうでした。（小学生）
- ○　知らない人とビブリオバトルや本について話し合う機会となって、すごく楽しかったです。（高校生）

※ 参加者の声

＜成果＞

- 乳幼児期、小学校期、中高校期と発達段階に応じた３つの講義・演習を設定することにより、参加者のニーズにあった活動内容を提供することができ、それぞれの読書意欲や読書推進の意欲向上につなげることができた。
- 学校や幼稚園、図書館やボランティア関係者の参加もあり、講義・演習を受けることによる資質の向上だけでなく、実際に子どもたちの反応を肌で感じることにより、子どもの読書活動推進に向けた意欲の向上を図ることができた。

「令和元年度　発達段階に応じた読書活動の推進」委託事業

（山口県）

課題

〇学年が上がるにつれ、読書離れが進む傾向にある。
〇小・中・高と継続して、自主的・自発的な読書活動に繋がるような取組が必要。

事業のねらい

図書館と出会う読書活動「ライぶらり」※を実施し、効果検証や手法の普及を進めることで、児童生徒の読書の幅を広げ、発達段階に応じた自主的な読書活動を促すとともに、学校図書館や公立図書館の自主的な活用を促進する。

※参加者が図書館を散策し、読んでみたいと思った本を選び、なぜその本を選んだのかを短時間で紹介し合う全員参加型の読書活動。

実施内容

〇小・中・高から選定した重点取組校における「ライぶらり」活動の実践・効果検証

〇学校等への出前研修会における演習やフォーラムの開催等による「ライぶらり」の普及

①重点取組校での「ライぶらり」活動の実践

小･中･高各1校で年間5回ずつ活動を行い、実施前後のアンケート調査で効果を検証

②出前研修会等における「ライぶらり」の演習

学校等に出向き、教職員や学校司書等に「ライぶらり」の手法を伝えるとともに、実践を呼びかけ

③「ライぶらり」フォーラムの開催

重点取組校での活動状況や成果の発表、「ライぶらり」体験、実践者との意見交換、講演会を実施

成果

〇本への興味・関心や読書意欲等の向上

全校種において読書への意欲が向上、特に高校生に高い効果

読書の幅の広がりや選書力の向上等においても高い効果が見られた

評価指標（児童・生徒調査）
読書への意欲（%）

	実施前	実施後
小学校	88	94
中学校	75	79
高等学校	54	71

〇図書館の利用意欲の高まり

活動を通じ学校図書館の利用率や図書貸出冊数が増加

児童生徒アンケートでも学校図書館や公共図書館の利用意欲が向上

「令和元年度　発達段階に応じた読書活動の推進」委託事業

（徳島県教育委員会）

課題

情報機器の多様化やライフスタイルの変化等により，中学・高校期において読書活動の機会が十分に確保できていないという状況や，読書が習慣化されている者と，そうではない者とに大きく二極化している状況がある。浸透しつつあるビブリオやお薦め本紹介等の取組は，読書習慣のある者には取り組みやすい。しかし，読書の習慣の定着していない者にはハードルが高く，読まない者同士が形成しているコミュニティを読む側へとつなぐ取組が現状では不十分である。

事業のねらい

学校・図書館・読書団体等が連携・協働し，子供が自主的に読書活動に取り組む環境整備の充実と，子供の発達段階に応じた読書習慣の形成を目指す。

特に，高校生の読書状況の改善に焦点を絞り取り組む。読書時間の確保はもとより，「主体的・対話的で深い学び」の視点をふまえた読書指導を実践し，「成熟読書期」の段階にいる生徒が本来身につけておくべき，読書能力の育成に取り組む。

アニマシオンによる読み聞かせ実践に挑戦
（会場：イオンモール徳島）

実施内容

高校生対象の読み聞かせ講習会を開催する。講師は地域で活動する読書団体が務め，高校生は講義，班別の実演指導を受け，読み聞かせの知識・技術の習得を図る。後日，高校生は児童館，大型商業施設，子ども食堂等に出向き「読み聞かせ」の実践を行う。各実践を通して，高校生は，読み聞かせ会に参加している子供の読書への興味関心を高める活動，絵本の世界観体験のサポートに取り組むとともに，次世代のリーダーとして親世代への読書啓発にも取り組む。

さらに，県内の高等学校1校をモデル校とした読書指導を実施する。不読率の高い高校生の読書状況の改善並びに，「主体的・対話的で深い学び」の基盤となる言語活動の充実とその能力の育成等について検証を行い，読書習慣の形成，子供の読書活動推進に取り組む事業を実施する。

①高校生のための読み聞かせ講習会

【講習スケジュール】
開講
全体講義（120分）
班別学習（　90分）
※4～5人班編制：講師による個別指導
評価・リフレクション（ 30分）
閉講

②高校生のための読み聞かせ実践会

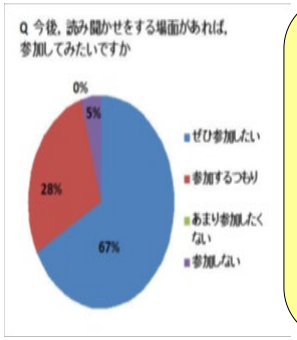
【実践スケジュール】
開講
事前指導・学習（30分～50分）
※選書・プログラム編成について
読み聞かせ実践（30分～40分）
評価・リフレクション（30分）
閉講

③アニマシオンでAL（徳島県立川島高校）

２日間の講座は、前半は座学を、後半はワークを中心とした学びとなりました。
希望者は、受講後、子ども食堂や大型商業施設等での実践に取り組みました。
また、生徒の要望に応え、国語総合の授業でも古文や4コマ漫画を教材に，アニマシオンを取り入れた研究授業が行われました。。

成果

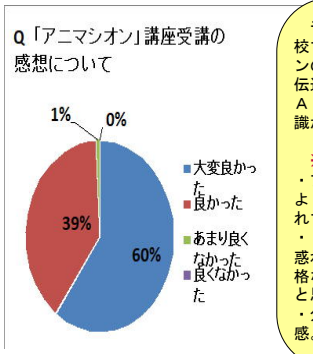
◆高校生のための読み聞かせ講習会・実践会



夏期休業中に実施した4講座には16校から延べ72名の高校生が受講。
また、9月から翌年2月までの間、1回/月のペースで開催した実践会には受講者のうち69名が参加している。

※受講者アンケートから抜粋
・絵本は精選された言葉で構成されている。聞き手に言葉をどのように伝えれば良いか考えさせられた。
・この経験は，私の就きたいと思っている教育関係の仕事に必ず役立つと思った。絵本の魅力を伝える一人として活動できたらいいなと思った。
・子供の反応はとても素直。もっと，読解力や伝達力を身につけて，子供たちのために読んであげたいと思った。

◆アニマシオンを用いた読書活動の取組による生徒の変容



モデル校となった徳島県立川島高等学校では，第１学年の全生徒がアニマシオンの講義を受講。情報収集力・分析力・伝達力・協働して課題を解決する力などＡＬに必要な力を身につけることへの意識が高まった。

※生徒アンケートから抜粋
・アニマシオンを用いたことで，内容がよく理解できた。教科の授業でも採り入れて欲しいと思った。
・ 想像以上にパネラーの答え（情報）に惑わされ，推理するのが難しかった。正格な情報をもとに，分析する力が必要だと思った。
・分かりやすく伝達する事の難しさを痛感。語彙力を身につけようと思った。

◆アンケート結果抜粋

第１学年全生徒を対象に，読書活動の状況についてアンケート調査を実施し，アニマシオン講座受講の前後比較を行った。
★読書時間10分未満の生徒の割合減［69%→52%］，
★読書のアウトプット率上昇［ 11%→40% ］など，読書習慣の定着及び読書への興味関心を高める取組として一定の成果が認められた。

「令和元年度　発達段階に応じた読書活動の推進」委託事業

（佐賀県）

課題

○生活環境の変化
○メディアの普及

子どもの読書離れが進む

事業のねらい

○困難を抱える子ども達に、本に親しむ環境を提供。
○読み聞かせグループの総合的なスキルアップ。

子どもが本に親しむ環境の充実

実施内容

【読み聞かせ派遣事業】
①おはなしの世界（対象：子ども食堂）
②おはなしのとびら（対象：児童養護施設等）

【読み聞かせグループ交流事業】
③読み聞かせスキルアップ講習会（交流会）

①おはなしの世界　（実施：3施設）

子ども食堂を対象に、読み聞かせ講師を派遣して、おはなし会や講習会を開催。

子ども食堂でのおはなし会

②おはなしのとびら　（実施：4施設）

児童養護施設を対象に、読み聞かせ講師を派遣して、おはなし会や講習会を開催。

職員への読み聞かせ講習会

③読み聞かせスキルアップ講習会（実施：2回）

読み聞かせ活動の課題解決を支援し、読み聞かせグループ間の交流の場を設ける。

読み聞かせグループの情報交換

成果

○おはなしの世界（子ども食堂）
・子どもたちが心から楽しんだり、愛情を感じて安心したりするなどの効果があった。
・施設職員の読み聞かせに関する理解が深まり、意識改革のきっかけになった。

○おはなしのとびら（児童養護施設等）
・図書館からの貸出による図書の充実が図られ、図書館と連携した読書推進が期待される。
・職員の方に、子どもの年齢や適性に応じた選書について伝えることができた。

○今回の事業を活用した施設等

区　分	こども食堂	児童養護施設 乳児院
実施率	3/26箇所	4/7箇所

○事業を実施して気づいたこと
・講師選定について、事前の教育と情報の共有等の準備の他、適正な講師の派遣が重要となる。

「令和元年度　発達段階に応じた読書活動の推進」委託事業

（熊本県）

課題

〇本県の児童生徒の読書率は、高校生は全国平均を大きく上回っているものの、小中学生は全国平均と同等及び下回っている。
〇本県読書計画の重点施策の中に、「家庭、地域、学校等において子供が読書に親しむ機会の提供」を掲げており、発達段階に応じた読書活動を推進するための具体的方策が求められている。

事業のねらい

〇発達段階に応じた子供の読書活動を推進するために、多様な本との出会いや読書方法について、児童生徒に学ばせる。
〇読書の効果や学校図書館及び公共図書館を活用する方法等を提供し、児童生徒が多様な本に出会える方法について、教職員に学ばせる。

実施内容

（概要）
- 中学生及び高校生のための読み聞かせ教室
- 小学生及び中学生のための読書のススメ
- 市立図書館とのコラボイベント（再委託先）
- 小中高連携による読み聞かせ（再委託先）

①中学生及び高校生のための読み聞かせ教室

県の読書アドバイザーが、中高生に対して、本の持ち方や手遊び、選書方法等、小学生に読み聞かせのポイントを体験を通して学ぶ機会とした。

②小学生及び中学生のための読書のススメ

県立図書館の指導主事が、小中学校の教員に対して、読書の効果や授業で図書館を活用する方法等、学校での読書活動に生かすためのポイントを学ぶ機会とした。

③市立図書館とのコラボイベント

市立図書館職員が小学校に出向き、学年に応じたアニマシオンを実施した。読書に対する興味・関心を喚起させ、読書好きを増加させた。

成果

〇取組を通した読書好きの増加

読書が好きと答えた児童生徒は、
６月：小86%、中高：85%から
11月：小88%、中高：91%へ変化

中高生は、読み聞かせ側の喜びを、小学生は読み物の楽しみを学び、読書好きにつながった。

〇図書室、図書館への入室の増加

週１回以上通う児童生徒は、
６月：小66%、中高：54%から
11月：小75%、中高：59%へ変化

図書館職員によるアニマシオンでは、「もっと読みたい」という読書意欲を喚起させた。

〇比較アンケートにおける成果

	1ヶ月不読率	1ヶ月5冊以上
6月調査	9%	53%
11月調査	6%	58%